



THE DAILY ENGINEERING & CONSTRUCTION NEWS

日 毎 工 業 新 聞

6月20日水曜日

2018年(平成30年)
第19451号

発行所 日刊建設工業新聞社
〒108-0021 東京都港区東新橋2-2-10
電話03(3433)7151 http://www.decn.co.jp/
◎日刊建設工業新聞社 2018
編集 電話03-3433-7161 mail-se@decn.co.jp
印刷 電話03-3433-7152 mail-se@decn.co.jp
広告 電話03-3433-7154 adv@decn.co.jp

明治政府は河川をどのよ
うに整備しようと考えたの
か。まず挙げられるのは船
による交通、物流を活発化
し経済発展につなげるため
の河川整備ではないか。

明治維新150年と治水の歴史

竹林征三

① 低水工事から高水工事への河川行政の大転換

年の淀川大洪水(浸水面積で、河川舟運の役割は次第
1万5142畝)、1889に低下。河川整備は舟運を
0(明治23)年と1892 主目的とした水深確保のた
(明治25)年、1894 めの低水工事から、洪水に
(明治27)年、1896 備える高水工事に移って
(明治29)年の利根川大洪 った。だが、1896年に
水、1896年の信濃川大 制定された河川法を踏まえ
洪水(横田切れ)など大水 た高水工事への転換は決し
害の続出を受け、高水工事 てスムーズではなかった。
の重要性や緊急性に対する 同年に日清戦争は終結した
関心が全国各地で高まっ ものの、ロシアの極東進出
た。 という脅威が高まってい
内陸運輸は船から鉄道、 た。限りのある財政の中で、
そしてそれを補完する道路 当時の内務次官は淀川水害
に移行。利根川筋では18 に備えた大橋房太郎の治
80年代から各地で鉄道建 水要請に対し、「淀川洪水
設が始まった。淀川筋でも を恐れるは当然なりといえ
1876(明治9)年の官 ども、国務に携わる者の責
営鉄道を皮切りに、左岸の 任としては淀川の洪水より
京阪鉄道、右岸の新京阪鉄 ももっと恐ろしいロシアに
道と新線が次々整備されて 備えなければならぬ」と
後川大洪水(死者70人、浸 応じたという。政府として
水)や1885(明治18) 木正雄はオーストラリア、
鉄道網が発達する一方 は河川事業への財政支出よ
岡崎文吉はアメリカなどへ

明治政府は河川をどのよ
うに整備しようと考えたの
か。まず挙げられるのは船
による交通、物流を活発化
し経済発展につなげるため
の河川整備ではないか。

大河津分水第1期工事
(新潟県)の廃止も低水工
事重視の国策が背景にあっ
たのではないかと思われ
る。工事の廃止を決定した
橋本正隆具令がその後、東
京都知事、参議院議長に大
栄転したのは、政府要人が
1876(明治9)年の官
営鉄道を皮切りに、左岸の
京阪鉄道、右岸の新京阪鉄
道と新線が次々整備されて
後川大洪水(死者70人、浸
水)や1885(明治18)

留學し、欧米の治山治水技
術を習得。帰国後、それぞ
れの部門で高水工事や砂防
工事の指導者として大きな
役割を果たした。決してオ
ランダ人技術者の低水工事
を継承することはしなかつ
た。神崎川などでは洪水時
の障害になるという理由で
ケレップ水制を撤去してい
る。
淀川改修の計画策定に当
たっては、沖野忠雄が中心
になって原田貞介らの意見
を尊重した。優秀な日本人
の近代的土木技術者が測
量、設計、工事監督を先導
する土木監督署、土木出張
所などの体制が次第に整備
されていった。
参考文獻・「物語日本
の治水史」鹿島出版会
(富士常葉大学名誉教授、
風土工学デザイン研究所会
長)

週一回掲載